

- ◆ 1 限りない命の如来に帰命し ◆ 2 思いはかることのできない光の如来に帰依したてまつる ◆ 3 法蔵菩薩の因位  
のときに ◆ 4 自在王仏のみもとで ◆ 5 仏がたの浄土の成り立ちや ◆ 6 その国土や人間や神々の善し悪しをこ  
らなう ◆ 7 この上なくすぐれた願をおたてになり ◆ 8 世にもまれな大いなる誓いをおこされた ◆ 9 五劫もの長  
い間思惟してこの誓願を選び取り ◆ 10 名号をすべての世界に聞えさせようと重ねて誓われたのである ◆ 11 本願を  
成就された仏は無量光無辺光 ◆ 12 無礙光無対光炎王光 ◆ 13 清浄光・歡喜光・智慧光 ◆ 14 不断光・難思光・無称光
- ◆ 15 超日月光とたたえられる光明を放つて、広くすべての国々を照らし ◆ 16 すべての衆生はその光明に照らされる
- ◆ 17 本願成就の名号は衆生が間違ひなく往生するための行であり ◆ 18 至心信樂の願〔第十八願〕に誓われている  
信を往生の正因とする ◆ 19 正定聚の位につき、浄土に往生してさとりを開くことができるのは ◆ 20 必至滅度の願
- 〔第十一願〕が成就されたことによる ◆ 21 如来が世に出られるのは ◆ 22 ただ阿弥陀仏の本願一乘海の教えを説く  
ためである ◆ 23 五濁の世の人々は ◆ 24 釈尊のまことの教えを信じるがよい ◆ 25 信をおこして、阿弥陀仏の救いを  
喜ぶ人は ◆ 26 自ら煩惱を断ち切らないまま、浄土でさとりを得ることができ ◆ 27 凡夫も聖者も、五逆のものも謗  
法のものも、みな本願海に入れば ◆ 28 どの川の水も海に入ると一つの味になるように、等しく救われる ◆ 29 阿弥陀  
仏の光明はいつも衆生を摂め取ってお護りくださる ◆ 30 すでに無明の闇ははれて ◆ 31 貪りや怒りの雲や霧は ◆  
32 いつもまことの信心の空をおおっている ◆ 33 しかし、たとえば日光が雲や霧にさえぎられて ◆ 34 その下は明  
るくて闇がないのと同じである ◆ 35 信を得て大いによるこび敬う人は ◆ 36 ただちに本願力によって迷いの世界の  
きずなが断ち切られる ◆ 37 善人も悪人も、どのような凡夫であっても ◆ 38 阿弥陀仏の本願を信じれば ◆ 39 仏はこ  
の人をすぐれた智慧を得たものであるとたえ ◆ 40 汚れない白い蓮の花のような人とおほめになる ◆ 41 阿弥陀  
仏の本願念仏の法は ◆ 42 よこしまな考えを持ち、おごり高ぶる自力のものが ◆ 43 信じることは実に難しい ◆ 44 難  
の中の難であり、これ以上に難しいことはない ◆ 45 インドの菩薩方や ◆ 46 中国と日本の高僧方が ◆ 47 釈尊が世に  
出られた本意をあらわし ◆ 48 阿弥陀仏の本願はわたしたちのためにたてられたことを明らかにされた ◆ 49 釈尊は  
楞伽山で ◆ 50 大衆に ◆ 51 「南インドに龍樹菩薩が現れて ◆ 52 有無の邪見をすべて打ち破り ◆ 53 尊い大乘の法を説  
き ◆ 54 歡喜地の位に至って、阿弥陀仏の浄土に往生するだろう」と仰せになった ◆ 55 龍樹菩薩は、難行道は苦しい  
陸路のようであると示し ◆ 56 易行道は楽しい船旅のようであると勧めになる ◆ 57 「阿弥陀仏の本願を信じれば ◆  
58 おのずからただちに正定聚に入る ◆ 59 ただ常に阿弥陀仏の名号を称え ◆ 60 本願の大いなる慈悲の恩に報いるが  
よい」と述べられた ◆ 61 天親菩薩は、『浄土論』を著して ◆ 62 「無礙光如来に帰依したてまつる」と述べられた ◆ 63  
浄土の經典にもとづいて阿弥陀仏のまことをあらわされ ◆ 64 横超のすぐれた誓願を広くお示しになり ◆ 65 本願力  
の回向によつてすべてのものを救うために ◆ 66 一心すなわち他力の信心の徳を明らかにされた ◆ 67 「本願の名号に  
帰し、大いなる功德の海に入れば ◆ 68 浄土に往生する身と定まる ◆ 69 阿弥陀仏の浄土に往生すれば ◆ 70 ただちに  
真如をさとした身となり ◆ 71 さらに迷いの世界に還り、神通力をあらわして ◆ 72 自在に衆生を救うことができる」  
と述べられた ◆ 73 曇鸞大師は ◆ 74 梁の武帝が常に菩薩と仰がれた方である ◆ 75 菩提流支三蔵から浄土の經典を授  
けられたので ◆ 76 仙經を焼き捨てて浄土の教えに帰依された ◆ 77 天親菩薩の『浄土論』を註釈して ◆ 78 浄土に往  
生する因も果も阿弥陀仏の誓願によることを明らかにし ◆ 79 往相も還相も他力の回向であると示された ◆ 80 「浄土  
へ往生するための因は、ただ信心一つである ◆ 81 煩惱具足の凡夫でもこの信心を得たなら ◆ 82 仏のさとりを開くこ

とができる◆83はかり知れない光明の浄土に至ると◆84あらゆる迷いの衆生を導くことができる」と述べられた◆85道綽禪師は、聖道門の教えによつてさとするのは難しく◆86浄土門の教えによつてのみさとりに至ることができ、ことを明らかにされた◆87自力の行はいくら修めても劣っているとして◆88ひとすじにあらゆる功德をそなえた名号を称えることをお勧めになる◆89三信と三不信の教えを懇切に示し◆90正法・像法・末法・法滅、いつの時代においても、本願念仏の法は変らず人々を救い続けることを明かされる◆91「たとえ生涯悪をつくり続けても、阿彌陀仏の本願を信じれば◆92浄土に往生しこの上ないさとりを聞く」と述べられた◆93善導大師はただ独り、これまでの誤った説を正して仏の教えの真意を明らかにされた◆94善悪のすべての人を哀れんで◆95光明と名号が縁となり因となつてお救いくださると示された◆96「本願の大いなる智慧の海に入れば◆97行者は他力の信を回向され◆98如来の本願にかなうことができるときに◆99韋提希と同じく喜忍・悟忍・信忍の三忍を得て◆100浄土に往生してただちにさとりを開く」と述べられた◆101源信和尚は、釈尊の説かれた教えを広く学ばれて◆102ひとえに浄土を願い、また世のすべての人々にもお勧めになった。さまざまな行をまじえて修める自力の信心は浅く、化土にしか往生できないが◆103念仏一つをもつばら修める他力の信心は深く◆104報土に往生できると明らかに示された◆105「きわめて罪の重い悪人はただ念仏すべきである◆106わたしもまた阿彌陀仏の光明の中に摂め取られていなければならない◆107煩惱がわたしの眼をさえぎって、見たてまつることができない。しかしながら◆108阿彌陀仏の大いなる慈悲の光明は、そのようなわたしを見捨てることなく常に照らしていただく」と述べられた◆109源空上人は、深く仏の教えをきわめられ◆110善人も悪人もすべての凡夫を哀れんで◆111この国に往生浄土の真実の教えを開いて明らかにされ◆112選択本願の法を五濁の世にお広めになった◆113「迷いの世界に輪廻し続けるのは◆114本願を疑いはからうからである◆115速やかにさとりの世界に入るには◆116ただ本願を信じるより他はない」と述べられた◆117浄土の教えを広めてくださった祖師方は◆118数限りない五濁の世の衆生をみなお導きになる◆119出家のものも在家のものも今の世の人々はみなともに◆120ただこの高僧方の教えを仰いで信じるがよい。

## 回向

願いとすることはこの教えの功德を、わけへだてなく平等にあらゆる人びとに伝え、ともに阿彌陀如来よりたまわる同一の信心をおこして、浄土の往生する道を歩んでいきたい。

この聖典は桜蓮寺ホームページからダウンロードしたものです。

皆様のご意見ご要望により、適宜更新致しますので、最新版をダウンロードして使用してください。

桜蓮寺 URL : <http://monbou.iinaa.net/>